

1 学生が学ぶ環境の充実

推進施策(案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で実施している関連事業
<p>(1) 大学間連携による学びの充実</p>	<p>【単位互換制度(コンソ)】 ・履修者数は減少傾向 H17(ピーク時) 10,200人 → H28 3,369人</p> <p>・「質への転換」を目標に、「京都世界遺産PBL科目」の開設(H27)、提供科目の精査などにより、提供科目の魅力の向上を図っている。</p>	<p>【単位互換制度】 ・3つのポリシーやカリキュラムマップ、アセスメントポリシーなどの取組や単位の実質化など、大学が取り組むべき課題も多く、単位互換制度をその中でどのように位置づけるべきか問われており、どう対処するかが課題。 ・大学設置基準第19条第1項(※)との関係が整理されないと、単位認定しづらいという問題がある。 (※)…大学は、当該大学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。 ・単位互換について、学内で完結できる環境が整ってきたので、利用する機会が減ってきた。学生にどうアピールするかは課題。 ・出願は開講科目や登録上限(CAP)制によるところが大きい、本事業は学生募集の広報において、京都に所在する大学としてのアピールポイントとして重要と考えている。 ・学外に出ない学生が多く、単位互換制度の魅力伝えるのに苦労している。 ・単位互換は座学よりもフィールドワークで他大学と交流できるような形の方が良い。 ・京都市における課題を身近な視点でとらえるPBLの方向性で検討してはどうか。</p> <p>【その他】 ・キャンパスプラザ京都は立地が良くアクセスしやすいので、大学や学部・キャンパスを超えて、学生同士がプロジェクト形式で取り組む環境がもっと増えれば良い。 ・芸術系の大学などと特色ある連携ができればありがたいが、特定の大学で音頭をとるのは難しいので、そのような点は大学コンソーシアム京都にお願いしたい。</p>	<p>・せっかく多様な学生が学んでいる仕組みの中で、学生目線でインカレ型の多様な学びや活動をどうデザインしていくかは重要。 ・コンソーシアムの形でやっていくほど、大きいところはますますそれからノウハウを得て十分なものをつくり上げていくことによって、大学単位の囲い込みが強化されてしまうという構造的な問題がある。 ・外に向けてノウハウの蓄積を明示しながら、それをオープンにし、ノウハウを普及、シェアしていくというシステム作りが一つの解決法。 ・京都の高校から京都の大学に進学したいという生徒は多い。大学コンソーシアムでいろいろな大学の授業が聞けることを後輩に伝えたいという生徒もおり、京都の強みである。 ・「内部質保証」というときに、連携をしながら外に出すという限界が出てきている。 ・「多様な学生」ということばはよいが、施策を実施する段階になって、幅広い「学生」の概念がきちんと共有されるかどうかは課題。 ・徹底的に「多様な場」をつくり出していくことを政策全体の土台に据えることが重要。</p>	<p>・単位互換制度(コンソ) ・キャンパスプラザ京都の運営</p>
<p>(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実</p>	<p>【障害のある学生の支援(コンソ)】 ・大学の障害学生支援業務に携わる担当者の交流を目的とした「関西障害学生支援担当者懇談会」の事務局として、年2回開催(加盟校は各回15~19大学が参加) ・教職員・学生を対象としたノートテイク養成講座・パソコン(PC)テイク養成講座を開催</p> <p>【ブラックバイト対策(京都市)】 ・京都市わかもの就職支援センターへの相談窓口の設置、センターや各大学での働くルールを学ぶセミナーや相談会の実施</p>	<p>【障害のある学生の支援】 ・専門部署を置くことが難しい中小規模の大学をはじめとして、変化していく情勢を踏まえた情報共有や研修は、地域コンソーシアムだからこそできる事業。今後、障害の程度を踏まえた支援事例のデータベース化など、各大学が適切に支援の判断ができるような情報の提供が望まれる。 ・障害のある学生への対応は最終的には個別支援になるため、コンソの取組は事例の共有という面で役立つという印象。 ・障害のある学生の支援について、各大学でそれぞれ取り組みはあるが、学生はまず自分の大学の窓口をたたくと思う。大学コンソーシアム京都と自大学の取り組みで重なるような部分が出たときに、どのように学生に周知していくのかよく迷う。 ・障害のある学生の対応について、同じ仲間として学生が自主的に動いてほしい。例えば大学コンソーシアム京都から何人か来てもらい、学生たちに実感・刺激を与えることができれば、あとは学内で発展させていけるかもしれない。 ・ノートテイク等の支援人材の派遣等、人材バンクの役割を担っていただけると大変ありがたい。</p> <p>【その他】 ・新入生への危険ドラッグや飲酒等に対する注意喚起は大学で行っているが、文字ではなかなか読んでくれないという実態もあり、どのように定着させるかは課題。 ・SNSやネット上の情報を安易に受容するのではなく、自らが正しい情報をキャッチし判断する必要がある。そのためにも働く上で基礎的な「労働法」や「求人票・青少年雇用情報シート等」の見方について、学生だけに限らず大学職員も正しく理解する必要がある。 ・学生は立場も弱く、相談できない可能性もあるので、京都市には雇用主への働きかけをもってブラックバイトの根絶に取り組んでいただきたい。</p>	<p>・障害のある学生の支援については、個別の大学だけでは難しいところがあり、少しメリハリを付けて、重点的に知恵の交換をしていくことが必要である。就職の際にかなりしんどい状況を抱えていたりするので、ぜひ手厚く取り組んでもらいたい。</p>	<p>・「京都市わかもの就職支援センター」によるブラックバイト根絶に向けた「働くルールを知るセミナー」の開催 ・障害者移動支援事業 ・障害学生支援(コンソ)</p>
<p>(3) ふれあう環境づくりと文化</p>	<p>・コンソ加盟校の学生が市内文化施設に優待料金で入場できる「京都市キャンパス文化パートナーズ制度」を実施(H28登録学生数:15,376人)(京都市) ・大学生をはじめとする若者が和の文化に触れ、体験し、伝統産業に親しむ機会を提供するため、公演やワークショップを行う「和の文化体験の日」を実施(H29テーマ:能楽)(京都市)</p>		<p>・言葉として非常にいいと思ったのは「ゆったり学べる環境」。ゆったり学べる環境を構成している要素は何かを明らかにして、伸ばしていく。さらに、それを学生に実際に体験してもらったり、味わってもらったりすることが大事。 ・「ゆったり」は素晴らしいキーワードだが、政策的にどう実現していくかを考える必要がある。 ・京都のまちは昔から学生にとっても寛容なまちで、昔は下宿生が多かったので、地域の人と密着して色々なことを一緒にやっていて、そういう雰囲気があった。最近は雰囲気が変わってきているが、住んでみて肌で感じて分かることがある。カリキュラム以外にそういったところを学んでもらうと、京都で学ぶ良さが分かる。</p>	<p>・キャンパス文化パートナーズ制度 ・京都・和の文化体験の日</p>

1 学生が学ぶ環境の充実

推進施策 (案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で 実施している関連事業
<p>(4) 学 習 の 推 進</p> <p>10年 時 代 を 見 据 え た 生 涯</p>	<p>【京カレッジ(京都市、コンソ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短期大学による大学講義、市民教養講座(市民教養講座、京都力養成コース、教養力養成コース)を展開。 ・H28から、複数大学による「大学リレー講座」を新規開講。 ・コンソが提供する「京都学講座」の人气が年々高まっているため、H29年度から午前・午後の2コースに充実(H27:定員250名,出願者331名。H28:定員250名,出願者464名。H29:定員500名,出願者794名)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1大学では限界があることとして、講師を招いての講演がある。大学コンソーシアム京都で公開する形できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生」を、どうしても従来からの「若者」という定義で捉えがちであるように見えている。中央教育審議会でも、昔に戻って、生涯学習や社会人の学び直しと言われるようになってきていることを踏まえると、大学政策を若者だけで考えていいのかどうかという点に難しさがある。 ・社会人を含めた形で学生と捉えていくと、地域の人材のエンパワーメントに、コンソーシアムがどういう役割を果たすのかを落とし込んでいく必要がある。 ・100年生きる時代の学び、その中で大学の役割を再定義し、大学のまち京都として何ができるか。大学が積極的に役割を果たすことで、社会全体にとっても非常にプラスになるような幅広い生涯学習を模索する必要がある。 ・働き方改革や生涯学習の文脈、高度専門職業人の育成や職業的なスキルの学び直しという観点で、地域公共政策士やGPMのような大学間連携の地域資格制度が生涯学習と結びつくのではないか。 ・例えばアメリカのテキサス州の大学では、サイバーセキュリティ人材を育成するシステムを構築している。個別大学ではできないので、履修証明プログラムなどの形でコンソーシアムを一つのキーにして広げることができないか。 ・京都は多くの寺院、文化財、その他文化的な資産が数多くあり、それに関わる学問もある。リタイアされた高齢の方を対象に、老後の資産の運用のことや経済的なこと、健康のことなどについてのプログラムを作れたらいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京カレッジ
<p>(5) 大 学 経 営 ・ 運 営 の 支 援</p>	<p>【FD, SD(コンソ)】</p> <p>H28は以下の取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都FD執行部塾(参加者数:39名) ・新任教員FD合同研修(計2回,参加者数:延べ31名) ・京都FD塾×大学教育パワーアップセミナー(参加者数99名) ・第22回FDフォーラム(参加者数:797名) ・大学職員共同研修(計8回,参加者数:延べ110名) ・SDワークショップ(計3回,参加者数:延べ29名) ・第13回SDフォーラム(参加者数:205名) ・SDセミナー(計8回,受講生数:25名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・FDは学内でも取り組んでいるが大学規模的に限界はある。中規模大学の弱点は人材育成なので、支援をお願いしたい。 ・若い教員が増えたが、学内で研修する力はないので、新任教員向けの内容で、他大学の方と交流できるようなプログラムがあると良いと思う。 ・もっと新任教員などを参加させたいが、時間的・経費的な都合があり参加させにくい。 ・SDの義務化で求められるのは大学のガバナンスに直結する内容なので、大学コンソーシアム京都ではなくて各大学が自前で何とかしなければいけないものではないか。今大学コンソーシアム京都で実施されている研修は従前のSDの延長にあるもので、これは今のやり方で良いのだと思う。 ・SD義務化の中、自前で研修制度を整えるのが難しいので、単発系、連続系をバランスよく組み合わせさせて展開してほしい。 ・初任者研修について、ビジネスマナー以外の体系的なプログラムがあってもよいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学が教養や語学の科目を共通化・外注する動きが全国的に出てきているが、インターカレッジの機能を持つ大学コンソーシアム京都がコンサルテーションも含めて連携できるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都FD・SDプログラム(コンソ) ・大学への寄付の増進
<p>(6) 支 援 ・ 施 設 整 備 の 支 援</p>	<p>大学施設整備に関する相談窓口を設置し、関係部署との連絡調整や市有地の活用などにより市内での大学キャンパス整備を支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市ホームページでのガイドプランの公表等、より一層の情報公開を期待。 ・具体的にどのような支援を行っているのか告知・周知のあり方に工夫が求められる。 ・都市型の大学ではキャンパス面積にも限界があるため、校舎の高層化など建築基準の緩和をお願いしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・大学施設整備支援事業

2 大学・学生の国際化の促進

推進施策 (案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で実施している関連事業
(1) 留学生の誘致の促進	<p>【京都市内の留学生数】 8,209人(平成29年5月1日時点【速報値】) ※平成16年(4,125人)以降、13年連続で増加</p> <p>【京(みやこ)グローバル大学】(京都市) 認定10大学(※)において、協定校との連携強化、新規協定校の開拓、留学生受入プログラムの開発・実施、交換留学プログラムの開発等、留学生誘致をはじめとする大学の国際化を促進する取組に対する支援。 (※)認定10大学:京都外国語大学、京都学園大学、京都産業大学、京都女子大学、京都精華大学、京都府立大学、同志社大学、同志社女子大学、花園大学、龍谷大学(五十音順)</p> <p>【留学生スタディ京都ネットワーク】 京都における留学生の誘致及び受入体制の整備をオール京都で推進するため、京都の大学、専修学校、日本語学校、企業、経済界、京都市、京都府などにより平成27年5月に設立(現在98団体が加盟) 京都留学総合ポータルサイトについては、英語、中国語(簡体字、繁体字)、ハングル、タイ語、ベトナム語、日本語の7言語で京都の留学情報を発信しているほか、京都で学ぶ現役留学生(7箇国9名)のPRチームによる、FACEBOOK等のソーシャルメディアを通じた情報発信も行うなど、積極的なプロモーションに取り組んでいる。また、平成29年度は、香港(11月)及びタイ(2月)において京都留学フェアを開催。</p>	<p>【「京グローバル大学」促進事業】 ・短期留学・短期派遣の需要は高く、国際化に向けた取組を進めており、資金面での支援は非常に心強い。引き続き新規募集等を検討していきたい。 ・各大学の取組で他大学にも活かせるようなモデルがあれば参考としたいため、周知にも努めてほしい。</p> <p>【「大学のまち京都」の魅力を感じられる短期留学受入れ事業】 ・大学教員による講義と、体験プログラムの内容を組むとより良くなるように思う(例:源氏物語と蘆山寺訪問、宇治散策等)。 ・各回25名は少ないように感じる。 ・大学のまち京都を見せるだけではなく、実際に学びの場となる大学を見せないと効果が薄いのではないかと。 ・実際に長期留学することになれば、住宅事情など生活面の不安が大きくなると思われるので、長期留学の際のバックアップ制度についても併せて周知いただきたい。</p> <p>【その他】 ・日本語教育を実施できない大学のため、留学当初に学生向けの日本語講座を行ってほしい。 ・留学生誘致のための基盤整備は、小規模大学では限界があるため、複数大学で相乗りして活用できる制度があればよい。 ・外国人留学生獲得にはwebでの広報、現地での説明会等は有効であると考え、現在のポータルサイトのコンテンツを見ると、更なる充実が必要であると感じる。 ・大学の状況・規模により受け入れの基礎となる組織的対応や受け入れ人材の確保の課題がある。 ・京都の街として留学生誘致支援はわかるが、大学の事情によってはあまり関係のない大学もあると考える。 ・日本語教育の強化や、京都の文化、日本の文化・伝統に触れられるようなコンテンツの魅力を広めていく取組などが必要であると感じている。</p>	<p>・これから東南アジアから学生を呼び込もうとしているが、イスラム教徒(ムスリム)への対応が必要になってくる。一大学で無理なところは、コンソーシアムなり行政なりの援助が求められてくる。 ・主に交換留学生の受入に関係することで、一大学で提供できる英語開講科目の数は限られるので、海外の学生にとって魅力的なラインナップにならないという困難がある。 ・留学生向けに英語開講科目の単位互換制度ができて、京都全体をキャンパスとするような取組を世界に発信できると面白い。 ・日本語講座、就職支援のプログラムなど、なかなか周知されていないのが現状である。 ・留学生ということで、一括りで言うのではなく、その中身に少し分け入って、さまざまなタイプの留学生にとって意味のあるプログラムなり、魅力の打ち出し方を考えていく必要がある。</p>	<p>・「京(みやこ)グローバル大学」促進事業 ・「大学のまち京都」の魅力を感じられる短期留学受入事業</p> <p>(ネットワーク事業) ・京都留学総合ポータルサイトの運営 ・京都留学フェア ・国内外留学フェアへの京都ブース出展 ・留学生PRチーム</p>
(2) 留学生受入環境整備	<p>【来日直後の留学生を支援する「ウェルカム・パッケージ」】(京都市) 大学等からの要請に応じ、京都市職員等が行政関連のガイダンスを実施するとともに、日本人学生による留学生サポートや留学生向け説明動画の作成を行う。 平成28年度ガイダンス実施実績:のべ13校794名 平成29年度ガイダンス実施実績(12月時点):のべ13校1,090人</p> <p>【留学生のための住宅情報サイトの創設と運営】(ネットワーク事業) 留学生向けの住宅情報検索サイトを創設し、多言語(英語、中国語【繁体字・簡体字】、ハングル、日本語)で京都の賃貸住宅情報を提供。 アクセス数:2,867アクセス(平成29年4月～9月)</p>	<p>【留学生の住居】 ・交換留学生を呼ぶためには宿舎を大学が用意するというのが前提にあるので、それをどうするかは各大学共通の課題である。トレンドは日本人・留学生の混住型の寮である。インターカレッジに住むような場所があっても良いと思う。 ・留学生の住まいについては各大学で共通の課題だと思うが、留学生と日本人学生の混住型にするかどうかなど、判断が各大学のポリシーによる部分もある。各大学に共通で発生する書類の手間の簡素化などであれば、コンソーシアムで対策できるのではないかと。 ・理想は混住型で、向島ではなくて自転車移動できる範囲で住まいを用意したく、支援しただけではないかと。併せて協定先の確保についても支援していきたい。 ・学部を絞り込んで留学生を受け入れているが、大学に学生寮がなく、留学生を増やしたくても体制的に厳しい部分がある。</p> <p>【職員向け英語スキルアップ研修】 ・各テーマのもと、1回完結でなく、3から4回行ってほしい。 ・英語のスキルは必要であるが、人事異動等を考慮すると特定教職員の研修受講のみでは支援体制の強化は図れないため、全体のスキルアップをどう進めることができるかが課題である。 ・半日半額で実施回数を増やすのも一案と思われる。 ・SD関連事業の中に包括できると考える。財団内部において重複しない業務分掌が求められる。</p>	<p>・留学生を呼びたいが、宿舎をどうするかや日本語教育などの問題があり、出来ない。そういったところをサポートしていただき、専門的なところは大学がするといったことができればありがたい。 ・留学生が典型的であるように、相対的なコストパフォーマンスの悪さがある。留学生支援は京都市のインフラとして進めていく、きちっと引き受けていく意味のある領域だと思う。 ・日本語教育でいうと、例えば、龍谷大学の日本語別科などにアクセスする形でやっていくと、わざわざコンソーシアムの中に作らなくても、コストをかけずに実施できる。 ・「グローバルな視野を持った若者が集い、育つまち」の「育つ」に関する施策を考える必要がある。 ・留学生が京都で学ぶ中で、日本人学生との交流、地域との交流についての評価が低い。国際化を他の施策と別物として考えがちだが、留学生も日本人学生と同じ立場で、国際化以外のところでも、留学生がどのように関わってくるかという視点が入っていた方がよい。 ・留学生と日本人学生が交流する科目は、開設が難しい大学もあるので、コンソーシアムで充実していくとおもしろい。教室内で留学生と一緒に学ぶ、あるいは教室外で地域との連携の取り組みの中で日本人と留学生と一緒に取り組むといった形で、国際的な学びの新たなモデルを打ち出せないか。</p>	<p>・「京(みやこ)グローバル大学」促進事業 ・来日直後の留学生を支援する「ウェルカム・パッケージ」 ・留学生優待プログラム ・外国人留学生交流等促進事業 ・外国人留学生国民健康保険料補助事業 ・京都市空き家活用・流通支援等補助金 ・京都市、京都橋大学及び醍醐中山団地町内連合会の地域連携事業 ・職員向け英語スキルアップ研修(コンソ) ・京都地域留学生住宅支援制度(コンソ)</p> <p>(ネットワーク事業) ・留学生のための住宅情報サイトの創設と運営</p> <p>(協会事業) ・「外国人のためのお部屋情報HOUSEnavi」の運営 ・京都市生活ガイドのホームページでの公開</p>
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	<p>【留学生の就職支援・マッチング事業】(京都市) 京都で学ぶ留学生と京都企業を対象とした求人・求職の情報提供を行うマッチングサイトを開設し、同サイトを通じて就職・採用の機会を創出するとともに、留学生と企業の抱える課題を解決するためのセミナーや交流会を開催する。 (29年度実績) ・留学生向けセミナー 2回(11月18日(土)、12月21日(木)) ・企業向けセミナー 1回(11月29日(水)) (29年度予定) ・マッチングサイト開設(1月末) ・留学生向けセミナー 3回(1月18日(木)、2月8日(木)、3月) ・企業向けセミナー 2回(1月18日(木)、3月) ・交流会 3回(1月18日(木)、2月8日(木)、3月)</p> <p>【留学生向け有給インターンシップ事業】(ネットワーク事業) 時給900円及び交通費が支給され、留学生が経済的な負担を心配せずに企業でのリアルな現場で就業体験ができるプログラム。 28年度:15社で7の国と地域22名がインターン実施 29年度:26社で10の国と地域37名がインターン実施</p>	<p>・日本で就職を希望する留学生は多いが、ニーズが多いところはハードルも高くなりがちである。</p>		<p>・留学生の就職支援・マッチング事業</p> <p>(ネットワーク事業) ・留学生向け有給インターンシップ事業</p> <p>(協会事業) ・外国人留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア ・留学生いきいき人材バンク(kokoka留学生なっと)、World Stageの運営</p>

2 大学・学生の国際化の促進

推進施策 (案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で 実施している関連事業
<p>(4) 海外留学の促進</p>	<p>【英語で京都をプレゼンテーション】(コンソ) 主に海外留学を検討する学生を対象に、英語で京都の深い魅力を伝えられる能力を養成するため、「英語で京都プレゼンテーション」講座を実施。 平成29上級クラス(全6回:春期)と中級クラス(全4回:秋期)の年2回(各定員20名)</p>	<p>・「英語で京都をプレゼンテーション」について、今後、初級者を対象としたプログラムも開催されることを希望する。 ・学生の海外派遣について、海外でのインターンシップを充実させたいが、なかなか難しい。京都企業の海外支店や系列など、紹介していただけるとありがたい。</p>	<p>・就職に響くので海外留学がこわいという学生が多い。学生を外に出したり、ちょっとセメスターをはみ出したり、余裕のある時間を生み出しながら、チャレンジしていくことが本当に難しくなっている。これを京都では何とかしたい。チャレンジを刺激するための「ゆったり」の設計を考える必要がある。 ・特に長期留学、3回生から行って4回生の途中で帰ってくると、就職活動の機会を逃すことになるので、それでもよいと覚悟して行くパターンと、それが嫌だからやめるという層に分かれる。留学中も企業に関する情報収集や就職活動ができるケースもあり、留学していたからこそ企業が評価してくれることもあるが、そういったことが学生にはあまり見えていない。 ・留学したいが、経済的な余裕がない学生もいる。 ・留学生と京都の大学の学生が集まって異文化リテラシーを醸成できるような科目をインターカレッジの枠組みでつければ、海外に行けない学生も利用できるのでは。留学せずに国内で国際的な学びができるという打出し方も考えられる。</p>	<p>・「京(みやこ)グローバル大学」促進事業 ・単位互換海外留学派遣プログラム(コンソ) ・英語で京都をプレゼンテーション(コンソ)</p>
<p>(5) の海外との学術教育研究 交流促進</p>	<p>京都市と海外の都市において、民間レベルでの特定分野の交流促進を目的とする「パートナーシティ」連携を進める中で、海外の大学・学生や大学間連携組織と市内大学・学生や大学コンソーシアム京都との連携・交流を促進。</p>			<p>・事業としては実施していないが、下記の取組を行った。 →28年度に米国州立大学連合が主催する「全米日本研究セミナー」参加者と京都の大学との交流会(交換留学の可能性等)を実施。</p>

3 学生の進路・社会進出の支援

推進施策 (案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で実施している関連事業
<p>(1) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける学びの機会の充実</p>	<p>【インターンシップ(コンソ)】 企業・団体数、実習生数ともに減少傾向。 ＜平成29年度実績＞ (企業・団体数) ビジネス・パブリックコース 登録数:198 受入数:155 プログレスコース 登録数:15 受入数:10 (実習生数) ビジネス・パブリックコース 出願者数:461 受入数:341 プログレスコース 出願者数:44 受入数:37</p> <p>【京都中小企業担い手確保・定着支援事業】 「京都市わかもの就職支援センター」を拠点に、求職者向けの個別カウンセリングやセミナーの実施、求職者と中小企業との交流会の開催、求職者が京都企業を取材し、その魅力を発信するインターンシップ事業、WEBサイト「京のまち企業訪問」の運営等によって学生と中小企業とのマッチング支援を行っているほか、就職後のフォローアップ等を実施している。 ＜平成28年度実績＞ 市内中小企業への就職者数(正規雇用):168名</p> <p>(上記事業の取組の中で、特に「学びの機会の充実」に関連があると思われる取組) 京都の中小企業の魅力再発見プロジェクト…京都市わかもの就職支援センターがインターンシップ生を受入れ、市内の中小企業を取材し、成果報告会やWEBによる情報発信を行った。 ＜平成28年度実績＞ 取材先企業数:10社、参加学生数18名 ＜平成29年度実績＞ 取材先企業数:12社、参加学生数14名</p> <p>【ビジネス総合力養成講座「京都D-school」】 ・新規市場を創出できる人材(新規市場創出人材)の育成を目的とし、多様な人々が集まり多彩な才能が融合できる場で、『新しいモノやサービスを創る力』『顧客を創る力』『価値を創る力』を養成することを目指し、セミナー等を実施。 平成29年度実績(11月末時点) 全7日間のセミナー(開催期間:平成29年5月20日～平成29年11月18日)の開催 公開シンポジウムの開催 受講者数:37名</p> <p>【Monozukuri Hub Meetup cafe】 ・次代の京都経済をリードするベンチャー企業を発掘・育成するため、ものづくり分野での創業に関心はあるが、現在実践までは行っていない学生や若手社会人等を主な対象としたミートアップイベントを実施。 平成29年度実績:3回開催(10月～12月)</p>	<p>【インターンシップ】 ・1dayのインターンシップなども多くなり、参加しないと選考の土俵に上がれなかつたりする。そのような中で、大学コンソーシアム京都のインターンシップはしっかりしたプログラムになっている一方、参加しやすいイメージは持たれないかもしれない。 ・ワンデイ型のインターンシップに参加する学生もいるが、企業の中身が見えているかどうかは疑問。また、インターンシップの時期は大体重なるので、学生からすると参加する企業数は絞らざるを得ない。企業としては、参加学生を増やすためにワンデイ型を導入していると思われる。 ・企業が安易な採用手段としてインターンシップを行う傾向にあり、長期・育成型が今後ますます減少すると思われるので今後大変重要な事業と思われる。 ・200を超える企業・団体が登録されていることから、受入れ先の質の見直しについても、ご留意いただきたい。</p> <p>【その他】 企業と連携したPBL、産学連携事業は、学生の可能性をおおいに伸ばすと考えているが、効果は指導する教員・職員の力に頼るところも多いのでは。</p>	<p>・企業連携のところで、企業側のニーズが非常にある。課題解決もあるが、企業側は人材育成としてとらえているところがあり、大学生とやることでwin-winな形を作りたいという声がかかりある。コーディネートは一定役割として考えられる。 ・企業と連携しようとした際に、連携できる相手方を一人知るのと知らないのでは、全く差がある。 ・都市間の学生獲得競争に京都が勝っていくためにも、大学の間から企業を肌で感じることができる環境を整えているのは非常によいこと。 ・大学での企業との連携事業では、企業側からのニーズもあるが、学生がそこに参加したいと思うかどうかは、PBLやインターンシップなど、その事業に取り組むことによってどんな力がついて、それがどう自分のキャリアに繋がるかが理解できるかどうかによるのではないかと。 ・コンソのインターンシップでは長期のプログレスコースも展開しているが、学生が長期のコースを避ける傾向がある。 ・短期を入口として、次のステップとして長期を組み込んではどうか。 ・企業が考える社会的課題を学生と一緒に解決していくタイプのインターンシップやPBLが増えてくることによって、企業もより進化し、変わっていく。 ・大学や学生が関わっていく中で地域や企業が変わっていくという状態をどうつくるか。個々の大学では難しい部分。 ・コンソでインカレ型でやれる。かつ意味があるインターンシップを再定義した方がよい。インターンシップという言葉自体を疑った方がいいかもしれない。 ・6・3・3で最後は4年間で終わって、終わった瞬間には就職が決まっているという社会的なコードが強すぎて、社会の多様性を殺している。若者と京都の企業がトークセッションを重ねていくようなことをやってみてはどうか。</p>	<p>・京都企業と連携した次代の京都を担う人材(担い手)の育成事業 ・スチューデントシティ・ファイナンスパーク ・生き方探求・チャレンジ体験事業 ・インターンシップ事業(コンソ) ・RELEASE; ・京都市ソーシャルビジネス支援事業 ・ビジネス総合力養成講座『京都D-school』</p>
<p>(2) マッチングに对应した京都企業と学生の就業</p>	<p>【京都中小企業担い手確保・定着支援事業】 「京都市わかもの就職支援センター」を拠点に、求職者向けの個別カウンセリングやセミナーの実施、求職者と中小企業との交流会の開催、求職者が京都企業を取材し、その魅力を発信するインターンシップ事業、WEBサイト「京のまち企業訪問」の運営等によって学生と中小企業とのマッチング支援を行っているほか、就職後のフォローアップ等を実施している。 ＜平成28年度実績＞ 市内中小企業への就職者数(正規雇用):168名</p> <p>【観光関連産業安定雇用促進事業(首都圏等をはじめとする求職者に対する中小企業の魅力発信事業)】 首都圏在住の京都出身の若者などが、京都の観光関連産業の中小企業を取材し、彼らの視点でその魅力を編集し、東京での取材成果報告会を実施するほか合同企業説明会などで広く発信する。 ＜平成28年度実績＞ 取材先企業数:延べ15社、参加者数:延べ44人</p>	<p>・学生の大手志向・安定志向は根強い。中小企業にどのように意識を向けさせるかは課題。 ・学生の京都企業とのマッチングは重要だと考えているが、学生の目をどうやって京都企業に向けるか。学生と京都企業の橋渡しになる取り組みについて、大学コンソーシアム京都または京都市として可能かどうか検討いただきたい。 ・大学で企業の説明会を開くとして、良いマッチングにつながるか分からないため、積極的に取り組みたいと思えない。 ・名前の知っている大手企業ばかりに目を向ける学生が多くいるので、今後もB to B企業などで高度な技術力を持つ企業や世界に誇れる製品を製造している企業を学生に知ってもらえるような機会をより一層増やしてほしい。 ・低年次からのセミナーを通じて、京都での就職を考えていなかった若者や、例えば、加盟校と連携しながら既卒者への情報提供を行うことで、働く場としての京都を発信し、更にマッチング率が上がる取り組みを進めていただきたい。 ・多くが大企業に就職するが、離職率も高い。再就職するにあたって京都の企業を希望する者は一定数いるかもしれないが、既卒生の就職支援はそれほど手厚く行っていない。 ・以前は先輩、後輩の関係で学生が地元就職の情報を入手していたが、そのあたりは現在では希薄となり、Uターン就職に関する公的な協定という制度が整えられ、そのようなルートでコンタクトをとっていく時代となっている。 ・わかもの就職支援センターの取組みは評価できるが、京都ジョブパークとの違いが明確でない。更なる違いのあるサービスを期待する。</p>	<p>・企業から学生に対して、雇用のあり方やキャリアパスをきちんと伝えられているか。企業の側も今の学生の感性をきちんと掴んで「変わらなければならない」という意識を持ち、改革することが1つの焦点になる。</p>	<p>・京都企業・就業情報データベースシステムの運営 ・京都企業魅力発信「京のまち企業訪問」運営事業 ・京都中小企業担い手確保定着・支援事業 ・首都圏をはじめとする求職者に対する中小企業の魅力発信事業</p>

3 学生の進路・社会進出の支援

推進施策 (案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で 実施している関連事業
<p>(3) を「働き方改革」の推進と学生の</p>	<p>・正規雇用の拡大と賃上げ、長時間労働の是正など働き方改革の推進による就労環境の改善等について、京都市と京都労働局及び京都府が共同して経済団体に対して要請を行っている(直近は平成29年12月に実施)。 ・京都を取り巻く雇用情勢、雇用対策における重要課題について、行政・労働者団体・使用者団体が話し合い、今後の方針を確認する京都労働経済活力会議(平成29年10月開催)において、企業の生産性向上の取組や就労環境改善等の支援による、長時間労働削減、非正規労働者の待遇改善等を推進することを確認した。 ・「京都市わかもの就職支援センター」にブラックバイト相談窓口を設置し、働くルールを学ぶセミナーや相談会を大学等で実施しているほか、実態を踏まえた学生への啓発などの取組を進めている。</p>	<p>・SNSやネット上の情報を安易に受容するのではなく、自らが正しい情報をキャッチし判断する必要がある。そのためにも働く上で基礎的な「労働法」や「求人票・青少年雇用情報シート等」の見方について、学生だけに限らず大学職員も正しく理解する必要がある。 ・学生は立場も弱く、相談できない可能性もあるので、京都市には雇用主への働きかけをもってブラックバイトの根絶に取り組んでいただきたい。</p>	<p>・ブラックバイトの話は、どちらかというと柱1の安心・安全の項目でよいのでは。働き方改革の視点を入れるのであれば、就労環境の向上というよりは、働き方を変えながら、生涯かけて学んでいくことを作り出して行って、それが中小企業やまちの産業の発展につながっていくような、100年をかけた人材育成のスキームだということの方がよい。生涯学習と関係づけた新たな大学の役割創造を考えた、特色を持った大学がより輝けるような機会にしていく文脈がほしい。 ・創造的な働き方をつくっていくためには、大学だけ一生懸命でこ入れして学生に呼びかけても難しく、企業側も一緒に入ってもらう。その雰囲気や熱気を感じてもらって変えていこうとしないといけない。 ・インターカレッジという概念はよいが、それに加えて、大学の環境はキャンパスの中だけではなく、企業の中にもある。企業に採用してもらうというスタンスだけではなく、企業に若い人の感性をきちんと掴んでもらう。そして企業も変わっていくという要素を盛り込んでいければよい。</p>	<p>・「京都市わかもの就職支援センター」によるブラックバイト根絶に向けた「働くルールを知るセミナー」の開催</p>

4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進施策 (案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で 実施している関連事業
<p>(1) 産学公連携によるイノベーションの創出</p>	<p>【京都市成長産業創造センターでの取組(29年度)】 ・最先端の大学の研究成果を事業化につなげる研究プロジェクトの推進 ・定期フォーラムの開催(8月):81名参加 「無機材料と私たちの暮らし ～進化していく窯業 ファインセラミックスの展開～」 ・4周年記念フォーラムの開催(11月):105名参加 「地域企業活性化へのアプローチ ～生産性向上に向けてのIoT・自動化・省エネ技術～」</p> <p>【京都産学公連携機構での取組(29年度)】 ・京都「大学の知恵」活用認定制度の創設・運用 ・「産学公連携・京都モデル」に向けた調査・発信 ・京都産学連携支援セミナーの開催(8月) : 125名参加</p> <p>【地域産学官共同研究拠点事業】 ・大学研究者や企業に高度研究機器の貸付(市内の大学研究者は無料)を行う拠点の運営 平成29年度実績:貸付3,851件(11月末現在) ・高度研究機器を活用した、大学・企業等との共同プロジェクトの推進 ・技術者育成講座(人材育成セミナー等)の実施 平成29年度実績:延べ286名参加(11月末現在) ・最先端の研究開発をテーマとしたシンポジウムや公開セミナーの実施 平成29年度実績:1回開催</p> <p>【京都市ライフイノベーション創出支援センターでの取組】 ・平成27年4月に、京都大学構内に、次世代医療分野や健康・福祉・介護分野における研究開発の支援を行う拠点を設置し、センター長及びコーディネータを中心に、大学研究者と企業とのマッチング等の支援を実施。 ・市内の大学研究者及び企業の研究開発を支援する京都発革新的医療技術研究開発助成事業を実施 平成29年度実績:20件採択 ・最先端の研究開発をテーマとしたシンポジウムやセミナーの開催 平成29年度実績:3回開催(11月末現在)</p> <p>【京都市産業技術研究所と大学との共同研究】 ・様々な大学と連携し、中小企業等の新技術・製品開発や新分野への進出につながる研究開発を行っている。</p> <p>【京都市産業技術研究所と大学との包括連携協定の締結】 ・京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都府立大学と包括連携協定を締結し、共同研究、セミナーの開催、学生の受入等の取組を実施している。</p>	<p>・産業・地域との連携、還元という観点からは、有益であるが、各大学の状況、方針及び大学シーズは異なるため、大学コンソーシアム京都として、大学と研究所等とのマッチングをどこまで具体的に進めていけるかが非常に重要である。 ・連携にあたっては、お互いのメリットを理解していることが重要であるため、産業界側の需要のみならず、大学側の需要やメリットを踏まえたコーディネートが必要。 ・短大規模で参画できる連携事業をもっと情報共有できると利用価値が出てくる。 ・重要だと思うが、小さな大学にとって恩恵を実感できる場面が少ない。 ・民間企業との連携実績がなく、「京都産学公連携機構」以外の事業や活動についてはよく知らない。 ・教員と地域とをマッチングする仕組みがあったとしても、基本的に教員がもともと持っている繋がりから展開が広がっていくことが多いため、あまり効果的ではないかもしれない。ただ、企業と連携したPBLのマッチングはなかなか難しいので、企業側の需要があるのではないかな。</p>		<p>・京都市成長産業創造センターでの取組の推進 ・地域イノベーション戦略支援プログラム ・スーパークラスタープログラム ・地域産学官共同研究拠点整備事業 ・京都産学公連携機構 ・京都市ライフイノベーション創出支援センター</p>
<p>(2) 京都産学公経済の連携性による</p>	<p>【高度人材交流拠点構想(仮称)】 創造的な人が京都に集まり、交流する環境の整備について、事業の財政負担やネットワーク形成とその維持等について検討を進めている。</p> <p>【大学をいかにした国内外のコンベンションの誘致支援】 京都市が展開するコンベンション誘致支援の仕組みをいかに、研究者の人的ネットワークや所属学会を通じた国際会議・学会の誘致を支援</p>	<p>・大学のまち京都として大学のシーズと地元企業のニーズをうまくコーディネートし、引き続き、連携事業や協働事業の促進を更に期待したい。ただし、文系大学としては、産学連携に発展するのが難しい現状である。 ・教員と地域とをマッチングする仕組みがあったとしても、基本的に教員がもともと持っている繋がりから展開が広がっていくことが多いため、あまり効果的ではないかもしれない。ただ、企業と連携したPBLのマッチングはなかなか難しいので、企業側の需要があるのではないかな。 ・京都文化のリソースが豊富にあることを発信するきっかけ(DBなど)があれば、教員が活用するかもしれない。</p>	<p>・産学公、地域連携といったときに、大学の側から言うのではなく、産業界から見たときの社会人の学び直しの授業も、コンソーシアムであるからこそできるのではないかな。</p>	<p>・京都観光経営学講座 ・京都市大規模国際コンベンション開催支援助成事業 ・コンベンション推進事業 ・大規模国際会議誘致助成事業 ・京都・高度人材交流拠点構想(仮称)の策定</p>
<p>(3) 芸術文化をい環境した向上</p>	<p>京都市内の芸術系大学等と連携し、地下鉄駅に芸術系大学生の作品を展示する「駅ナカアートプロジェクト」や、京都在住芸術家を支援する「東山 アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS)」、マンガ家志望者がプロとなるきっかけを提供するコミュニティづくりの取組「京都版トキワ荘プロジェクト」などを実施。</p>		<p>・アートを産学公連携やまちづくりにもっと結び付けていこうな事業やプロジェクトがあればよい。 ・市立芸大の移転ともしっかりリンクさせる必要がある。</p>	<p>・駅ナカアートプロジェクト ・Art-e Kyoto ・東山アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS) ・京都版トキワ荘プロジェクト</p>

4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進施策(案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で実施している関連事業
<p>(4) 大学・学生と地域との連携の推進</p>	<p>【大学地域連携創造・支援事業(学まちコラボ事業)(京都市、コンソ)】 平成16年度から、大学・学生と地域との連携を促進し、まちづくりや地域の活性化に資する取組を支援。 平成29年度から、大学・学生と地域との協働・連携による文化的な取組をより一層促進するため、「文化枠」を新設(平成32年度まで実施予定)。(採択事業数 H27:14件, H28:18件, H29一般枠:17件, 文化枠:3件)</p> <p>【「学まち連携大学」促進事業(京都市、コンソ)】 大学を挙げた地域連携の取組をこれまで以上に促進するため、今年度の新規事業として地域と連携した活動を通じて学生が学が実践的な教育プログラムの開発及び実施に取り組む大学を支援。 採択大学(6校):大谷大学、京都教育大学、京都女子大学、京都橋大学、同志社女子大学、龍谷大学</p> <p>【大学・地域連携サミット(京都市、コンソ)】 大学・学生と地域の連携事例を広く発信するとともに、地域連携活動に携わる大学・学生や地域団体等が交流する機会として開催。 H28:11月6日(日)、参加者数約130名 H29:11月12日(日)、参加者数約150名</p> <p>【区民提案・共汗型まちづくり支援事業(京都市)】 各区において、大学と地域との連携による取組を支援。</p>	<p>【学まちコラボ事業、「学まち連携大学」、大学・地域連携サミット】 ・大学コンソーシアム京都以外に、行政ともこのような事業を行っており、内容的にも酷似しており、違いが見いだせない。 ・大学の実情としては、地域のコーディネーターを担える人材は少なく、活動の継続性・持続性が課題になってくると思う。 ・補助金を交付している以上、その効果について十分、留意いただきたい。 ・地域と連携したいが、連携したい地域がどこにあるかわからない、地域がどのような課題を抱えて学生の力を借りたいのか分からない、という状況がある。地域の課題やニーズを集めて学生団体等とのマッチングを行う事業は、一大学で行うよりもコンソーシアムで行う方が優位性があり、是非そのような機能強化をお願いしたい。</p> <p>【その他】 ・地域から大学へ課題が持ち込まれることはあまりなく、教員が自分でフィールドを開拓していることがほとんどである。 ・学生にとっては単位認定されるかどうか、活動するかしないかに影響するのでは。 ・各教員・学生が行っている活動の整理と共有が必要。また、地域がどう受け止めているのかも知る必要がある。 ・活動に取り組むに当たっては大学院生のような、教員と学部学生の間立つコーディネーターとなる人材を配置したいが、人材や予算の確保の問題がある。 ・活動の開拓は大学でも行えるが、その後のケアが課題である。 ・学生からの自発的な活動が無いわけではないと思うが、基本的にはニーズがどこにあるかわからないので、要望を受けて応じていくスタンスである。 ・京都市関連事業については活動範囲に縛りがあり、参加できないものがある。垣根を無くせないか。 ・市内の活動であれば交通費が補助されるような支援があると、活動がもっと活性化するのではないか。 ・留学生が地域に関わるなど、地域連携と国際化は一体的に取り組んでいきたい。 ・大学コンソーシアム京都がニーズをつかんで、加盟校に提案していく流れを作れないか。</p>		<p>・区民提案・共汗型まちづくり支援事業 ・大学地域連携創造・支援事業(学まちコラボ事業) ・「学まち連携大学」促進事業 ・大学・地域連携サミット ・地域連携ウェブサイトの運営 ・地(知)の拠点大学による地方創生推進事業の採択大学・申請大学との連携</p>
<p>(5) 小中高大(院)連携の推進</p>	<p>【高大連携事業(コンソ)】 高校と大学がともに学び合い、育ち合う関係の構築に向け、共同授業や出張授業の充実など、大学コンソーシアム京都における京都高大連携研究協議回を中心とした高校と大学の連携を実施。</p> <p>【「学生ボランティア」学校サポート事業】 市立幼稚園・学校において、学生ボランティアが、学級活動や部活動の補助など、児童・生徒に関わる学校活動の支援を実施。(H28:113大学・短期大学・専門学校と協定締結。213校、24869回活動。)</p> <p>【京都教育懇話会】 次世代の教育についてのあり方、人材育成の方向性を模索し、先進的な取組を全国へ発信。</p> <p>【京都こどもモノづくり事業】 「ものづくり都市・京都」の特性をいかし、産学公連携・市民ぐるみにより、小中学生がモノづくりを学び・体験する機会を創出する取組を実施。</p>	<p>【高大連携事業(コンソ)】 ・教育の接続を行うために、大学、高校(各教科単位)双方の問題点、改善点を明らかにする必要がある。本事業はその良い機会となっている。 ・高等学校基礎学力テストなどに関する最新動向の発信のための取り組みを今後も続けていただくことを希望している。 ・2015年度で終了した「京都の大学『学び』フォーラム」は、京都の高校生に京都の大学での学びを直に体験してもらえる、非常に良い機会だったように思う。 ・京都府・京都市の高等学校等において、個別の高大連携事業の企画が年々増加している状況であり、コンソーシアム事業で何か一部でも集約化が図れるようなプログラムがあればと思う。 ・他大学生との交流も含めたキャリア意識の醸成ができるプログラムをさらに充実いただけるよう願っている。 ・短大では利用しづらい内容の取り組みが多い。 ・初・中等教育と高等教育との学びの一貫性が求められる昨今において、「各学校が個別で行うべきこと」と「財団として支援すべきこと」の領域を明確化する必要がある。 ・京都における高校・大学の連携自体は極めて重要な項目だと認識するが、一方で2016年度事業内容並びにその参加者数を見ると、あまり活発な取り組みをされているようには思えない。 ・大学全入時代となった現代において、大学に進学する高校生全員が明確な目標を持って進学することの意義は極めて重要であることから、ニーズに即した事業が不可欠である。特に高校1年生を対象としたプログラムが必要ではないか。 ・今後、高校生と大学生とのより深い交流を基本とするとするが、教育的視点なのか、制度としての入試を念頭において検討されているものかがいまいである。 ・重きをどこに置くか、狙いをどこに置くかを明確に、イベントの総括も含めて検討する必要がある。</p>	<p>・高校も企業や大学と連携をしたいと思っているが、できる学校とできない学校があり、予算の問題とそういう取組を教育課程にどう位置付けるかが非常に大きい。 ・高校や大学が大学のまち京都、高等教育のまち京都としてのダイナミックな高大連携をどうデザインしていくかを一緒に考えていくような取組を実施していく必要がある。 ・文科省において、アクティブラーニングを高校でも実施するよう推進しており、大学生の勉強にもなるし、高校の先生もそれまでの高校の授業と違ったやり方の勉強になる。 ・高大連携において、大学側の意識と高校側の意識に乖離がある場合は多い。 ・日常のやり取りや交流によって京都の大学のことが分かってもらえるなど、遠い将来、京都の大学のオープンキャンパスが消えるといったイメージが持てるようになれば良い。 ・社会への開き方や、どう交流やどう関係性の持ち方が日常的に必要で、それが大学にとってもメリットがあるのか、高校生にこういうことが日常的に培われていくといった、対話できるようなテーブルができていくと、有機的な高大連携がイメージできるのかもしれない。</p>	<p>・「学生ボランティア」学校サポート事業 ・京都教育懇話会 ・京都こどもモノづくり事業</p>
<p>(6) 連携り特色強化 強化・機能と強化に</p>	<p>特色化・機能強化に取り組む大学との情報共有を図り、京都市の施策や大学コンソーシアム京都の事業との連携を促進。</p>	<p>・大学が多く、公平な判断が必要になるのは理解できるが、もっと柔軟・大胆に支援していただきたい。(スピード感) ・大学が取り組んでいる・取り組みたいことが、国の提示する内容に合致するかどうか確認するのに時間がかかる。 ・文科省とやり取りする際に東京まで行くのは非効率的。期間限定でもいいので、出先機関ができるとありがたい。 ・大学コンソーシアム京都加盟校の要望を吸い上げる機会として、ヒアリングの機会は重要である。 ・大学コンソーシアム京都のシンクタンク機能を再構築し、攻撃的で価値創造的な、最前線で戦っている方の知恵袋となるようなシンクタンクにできないか。 ・大学コンソーシアム京都加盟校は、東京にある大学に比べ、地理的に不利な条件を常に抱えている。シンポジウム等の取り組みにおいて、東京に足を運ばなくても情報を得る機会を引き続きご提供いただきたい。 ・専門職大学により、専門学校が参入してくる可能性があるが、大学コンソーシアム京都や京都市がどのように対応するか、気になるところである。</p>		<p>・事業としては実施していないが、大学との情報共有、連携強化に努めた。</p>

5 大学の枠を超えた学生の活動の促進

推進施策 (案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で 実施している関連事業
(1) 学生の主体的活動の促進	<p>【京都学生祭典(コンソ)】 第15回目の節目の年を迎え、さまざまな大学から約1,500人の学生が参画し、本祭には10万人以上が来場するなど、「学生のまち京都」を象徴する取組として定着。</p> <p>【輝く学生応援プロジェクト(京都市)】 学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施。 平成26年度から、学生が個人単位でも社会貢献活動に取り組むことができるよう「学生ボランティアチャレンジ」を開始。(活動開始者数 H26:25名, H27:56名, H28:94名)</p>	<p>【京都学生祭典、京都国際学生映画祭】 ・学生の主体的な活動となることについては、大変有効であるが、ややもすると、イベント運営のための要員となりかねない。 ・単なるイベントとならないよう、創造性をはぐくむ支援が必要。 ・短大では利用する余裕のある学生はいない。 ・「汎用性能力」とは社会人基礎力のような能力と考えられるが、今後は、この事業に参加した学生の成果の指標や当該事業の参加の前後でどのような変化があるのかをアンケート等で比較検証していくことで、学生にとってより成長できる事業として発展させていきたい。 ・京都市外のキャンパスに所属する学生の関心は高いとは言えない。 ・夜遅くまで学生が活動していることがあるようなので、適切な指導をお願いしたい。</p> <p>【輝く学生応援プロジェクト】 ・「輝く学生応援プロジェクト」の名称では、中身が見えにくいと思う。 ・取組は重要だが、どれくらいの学生が利用しているのか数値が見えない。 ・学生への周知が課題である。</p> <p>【その他】 ・低年次生にどのように伝えていくかが重要である。特に1年時生は期待感をもって大学に来ているので、情報と場を適切に提供していけば更なる大学コンソーシアム事業への参加につながるのではないかと。 ・最近の学生は授業やアルバイトなどで忙しく、課外活動に費やす時間が少なくなってきているのではないかと。 ・インターカレッジの活動は、以前は学生が自由に行っていたと思うが、最近はお膳立てが必要になった。 ・グループで活動するのが苦手な学生が増えているのでは。</p>		<p>・京都学生祭典(コンソ) ・京都国際学生映画祭(コンソ) ・輝く学生応援プロジェクト</p>
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の拡充	<p>【大学地域連携創造・支援事業(学まちコラボ事業)(京都市、コンソ)】 平成16年度から、大学・学生と地域との連携を促進し、まちづくりや地域の活性化に資する取組を支援。 平成29年度から、大学・学生と地域との協働・連携による文化的な取組をより一層促進するため、「文化枠」を新設(平成32年度まで実施予定)。(採択事業数 H27:14件, H28:18件, H29一般枠:17件, 文化枠:3件)</p> <p>【学生消防サポーター(京都市)】 市内の大学・短大生等を対象に防火・防災研修を実施。平成28年度から、一定の知識・技能を有すると認められた学生にライセンスを発行する制度を導入。(H28ライセンス取得者:222名)</p> <p>【京都から発信する政策研究交流大会(コンソ)】 都市政策を学ぶ大学生・大学院生を中心に、日頃の研究や学習の成果の発表を通じての交流や地域社会に対して政策提案、情報発信の場として実施。(H28:口頭発表:65組、パネル発表:18組)</p>	<p>【京都から発信する政策研究交流大会】 ・交流大会は学生に良い経験・刺激になると思うので募集案内を学内に照会するが、中々手を挙げる学生・教員はいないのが実情である。</p> <p>【学まちコラボ事業など】 ※柱4(3)再掲。 ・大学コンソーシアム京都以外に、行政ともこのような事業を行っており、内容的にも酷似しており、違いが見いだせない。 ・大学の実情としては、地域のコーディネーターを担える人材は少なく、活動の継続性・持続性が課題になってくると思う。 ・補助金を交付している以上、その効果について十分、留意いただきたい。 ・地域と連携したいが、連携したい地域がどこにあるかわからない、地域がどのような課題を抱えて学生の力を借りたいのか分からない、という状況がある。地域の課題やニーズを集めて学生団体等とのマッチングを行う事業は、一大学で行うよりもコンソーシアムで行う方が優位性があり、是非そのような機能強化をお願いしたい。</p> <p>【京都学生祭典】 ※柱5(1)再掲。 ・学生の主体的な活動となることについては、大変有効であるが、ややもすると、イベント運営のための要員となりかねない。 ・単なるイベントとならないよう、創造性をはぐくむ支援が必要。 ・短大では利用する余裕のある学生はいない。 ・「汎用性能力」とは社会人基礎力のような能力と考えられるが、今後は、この事業に参加した学生の成果の指標や当該事業の参加の前後でどのような変化があるのかをアンケート等で比較検証していくことで、学生にとってより成長できる事業として発展させていきたい。 ・京都市外のキャンパスに所属する学生の関心は高いとは言えない。 ・夜遅くまで学生が活動していることがあるようなので、適切な指導をお願いしたい。</p>	<p>・学生をどんだん地域に出していこうという掛け声がかかるのは良いことだが、コストの面で見れば、本当にすべての学生に交通費を出して実施するのとなると、制度上、個々の学生に対しての交通費負担は禁じられている。 ・大学が本来制度として対応しにくいところについては、まさにコンソーシアムあるいは正課外の学習という機能を使ってやっていくなど、学外の学びのうまい作り方は、コンソーシアムとしても京都市としても考えていく必要がある。</p>	<p>・大学地域連携創造・支援事業(学まちコラボ事業) ・地域連携ウェブサイト ・青少年モニター制度 ・京都から発信する政策研究交流大会(コンソ) ・自治会等への加入促進(きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰) ・自治会等への加入促進(大学・専修学校新入生向けチラシの配布) ・京都学生消防サポーター ・消防団入団促進事業 ・学生防犯ボランティアの参加 ・「DO YOU KYOTO?」プロジェクトと「KYO-SENSE」プロジェクトの連携 ・京都学生祭典実行委員会による夜警活動</p>

6 プロモーションの推進

推進施策(案)	現状	加盟校アンケート、ヒアリングでの意見等	部会、推進会議での意見等	(参考)京都市と大学コンソーシアム京都で実施している関連事業
<p>(1) 「中学生・高校生のまち京都・都保・学生への魅力発信」の</p>	<p>【京都学生広報部】 ・平成27年度に京都で学ぶ大学生の「京都学生広報部」を創設。大学生の視点で企画・取材・撮影・記事作成した「中高生に伝えたい京都のリアルな情報」をウェブサイトやSNS等で発信。(入部学生数:11大学から50名 ※29年11月時点)</p> <p>【京都B&Sプロジェクト】 民間旅行事業者と連携して大学生が修学旅行生などを案内する京都観光&キャンパスツアーを実施。 H28参加数:22校 3,039人(中学校18校、高校4校) 留学生向けのプログラムも1件実施</p>	<p>【京都学生広報部、京都B&Sプロジェクト】 ・個々の大学では、自大学の志願者を増やすためのPRしかしなが、京都の魅力・京都の大学の魅力を発信することは重要であり、それは大学コンソーシアム京都でしかできないことである。 ・各大学が単独で広報活動に注力する昨今、全体で広報すべきテーマ・内容と大学ごとに特色を持ってIRを行うべきものとのバランスを考慮する必要がある。 ・広報対象が近辺地域に限定される短大では利用しづらい。 ・大学生にとっては有意義な活動である可能性が高いが、大学にとっては学食等の施設利用のみであり、あまりメリットがあるとは考えにくい。 ・“B&S”、一見して何をしているものなのかわかりにくい。 ・将来、京都に來たいと思わせるツールになっているのか、またウェブサイトやSNSでの発信に対する効果の検証が必要である。 ・広報事業として位置づけられている取り組みなので、この経験を通じた学生の成長は付加的なものと考えられるため、学生交流事業のような学生が主体的に取り組む事業との差別化を明確にし、発展させてもらいたい。 ・その後の継続的なつながりに発展させるプログラムの必要性を感じた。</p> <p>【その他】 ・首都圏にはグローバル志向の学生が集まりやすく、重要視している。 ・学生祭典は京都のプロモーションにつながるのではないかと。 ・首都圏とは違う、コンパクトなサイズ感でゆったりとした雰囲気、学びに集中できる環境をアピールできないか。 ・首都圏の富裕層が文化的なものを求めて通信教育を受講しているのでは。 ・親御さん世代は京都に関心を持たれることが多い。 ・大学が合同しての広報は、結局大きい大学に人が流れてしまう。 ・修学旅行生に配布する資料をつくれないうか。 ・大学コンソーシアム京都のブランディングは戦略的ではないと感じる。 ・大学ごとのリソース集があれば、京都の大学の魅力を発信しやすいのではないかと。 ・首都圏でのプロモーションを今一度検討してみてもどうか。</p>	<p>・外国の留学生を誘致するプロジェクトはあるが、長い目で見ると、日本人の学生も誘致しないといけないのではないかと。 ・誰に対するプロモーションなのか。それによってプロモーションの仕方が変わってくるのではないかと。 ・日本全国の学生の誘致については、一番効果があるのは修学旅行である。しかし、京都市が修学旅行先としても強いと思っているうちに、沖縄がどんどん増えていくとか、海外に行ってしまうことがあるので、もう少し、プロモーションがいるのかもかもしれない。 ・プロモーションの効果が目に見えてくるのは、おそらく数年かかる。重要なことは、それを地道にきちんと積み上げていくことである。</p>	<p>・京都学生広報部 ・京都B&Sプロジェクト ・きょうと修学旅行ナビの運営</p>
<p>(2) 留学生のまち京都に向けた魅力発信のまち京都・</p>	<p>【京(みやこ)グローバル大学】(京都市事業) 認定10大学(※)において、協定校との連携強化、新規協定校の開拓、留学生受入プログラムの開発・実施、交換留学プログラムの開発等、留学生誘致をはじめとする大学の国際化を促進する取組に対する支援。 (※)認定10大学:京都外国語大学、京都学園大学、京都産業大学、京都女子大学、京都精華大学、京都府立大学、同志社大学、同志社女子大学、花園大学、龍谷大学(五十音順)</p> <p>【留学生スタディ京都ネットワーク】 京都における留学生の誘致及び受入体制の整備をオール京都で推進するため、京都の大学、専修学校、日本語学校、企業、経済界、京都市、京都府などにより平成27年5月に設立(現在98団体が加盟) 京都留学総合ポータルサイトについては、英語、中国語(簡体字、繁体字)、ハングル、タイ語、ベトナム語、日本語の7言語で京都の留学情報を発信しているほか、京都で学ぶ現役留学生(7箇国9名)のPRチームによる、FACEBOOK等のソーシャルメディアを通じた情報発信も行うなど、積極的なプロモーションに取り組んでいる。また、平成29年度は、香港(11月)及びタイ(2月)において京都留学フェアを開催。</p>	<p>【「京グローバル大学」促進事業】 ※柱2(1)再掲。 ・短期留学・短期派遣の需要は高く、国際化に向けた取組を進めており、資金面での支援は非常に心強い。引き続き新規募集等を検討していただきたい。 ・各大学の取組で他大学にも活かせるようなモデルがあれば参考としたいため、周知にも努めてほしい。</p> <p>【「大学のまち京都」の魅力を感じられる短期留学受入れ事業】 ※柱2(1)再掲。 ・大学教員による講義と、体験プログラムの内容を紐づけるとより良くなるように思う(例:源氏物語と廬山寺訪問、宇治散策等)。 ・各回25名は少ないように感じる。 ・大学のまち京都を見せるだけではなく、実際に学びの場となる大学を見せないと効果が薄いのではないかと。 ・実際に長期留学することになれば、住宅事情など生活面の不安が大きくなると思われるので、長期留学の際のバックアップ制度についても併せて周知いただきたい。</p> <p>【その他】 ・ポータルサイトについて、情報の充実化に向けて内容の精査を図ってほしい。 ・外国人留学生獲得にはwebでの広報、現地での説明会等は有効であると感じる。ただし、現在のポータルサイトのコンテンツを見ると、更なる充実が必要であると感じる。 ・入学時に配布するリーフレット等の留学生向けの広報を一層充実させてほしい。 ・国内でも中規模に属する本学が果たして海外の学生に対して個性を十分に表現できるか、評価されるかに不安を感じており、現時点では活用を見合わせている。</p>	<p>・対外的な文化、対外的というのは国というレベルになるが、例えば、大使館などで、日本で勉強できる大学のパンフレットが置いてあるが、ほとんどが東京なので、大学の集積が京都にあるのは全然見えない状況である。 ・対外的にも京都には大学の集積があって、文化のコアであることをプレゼンテーションできる部分が必要。</p>	<p>・留学生PRチーム ・京都留学フェア ・国内外留学フェアへの京都ブース出展 ・京都留学総合ポータルサイトの運営 ・「大学のまち京都」の魅力を感じられる短期留学受入事業 ・「京(みやこ)グローバル大学」促進事業</p>
<p>(3) 大学・市民向け広報の充実</p>	<p>大学からの依頼に応じて、市職員が大学へ出向いて市政に関連したテーマで講義するなど、各大学と連携して取り組みを実施。</p>		<p>・国ベース、あるいは公共的なところでの認知度は高いが、個別の大学で知らないところがあったり、あるいは余裕がなくコンソーシアムの事業に関わることができないという点については、各大学の人材の面での余裕が大きい。小規模大学にとつてのメリットを考えてプロモーションしていく必要がある。</p>	<p>・大学での市政に関する出張講義</p>